

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所

ARPA・Kの教育研修と組織運営

代表取締役社長

三輪 泰司

7月1日、2日、須磨浦の兵庫インターナショナルセンターで1983年夏の全所研修会を行ないました。

去年の暮の研修会は、統一テーマによる分散会で行いましたが、今夏の研修会は分科会方式をとりました。6月末とは、①前年度の業務が完了し新年度の受託業務がスタートする時期、②新入所員も3ヶ月の実務経験を積んで第一線に参加し新しい組織編成が始動する時期にあたります。従って調査、計画、設計の各分野での業務の総括、研究開発・技術開発および評価・反省を分科会で深く掘り下げる方法をとりました。

第1分科会は大規模プロジェクト、総合計画、特色ある地域づくり、第2分科会は市街地再開発、港湾、交通、ゴミ、観光、第3分科会は景観、防災、建築、住宅をテーマに九州事務所をふくめて8つの計画室の総括報告と28の典型業務報告をもとに議論しました。

分科会は第1日目の午後9時までの筈でしたが午前1時まで熱中していたチームもありました。

研究・技術開発

何といたっても討論の集点は視点や方法は正

しかったか、どのような新しい提案や開発をしたか、といったことになります。今回の研修会でもいくつかの興味深い新しい研究・技術開発が報告されました。

私たちの研究・技術開発は当然のことながら業態や組織の特性と深くかかわっています。

すなわち①受託業務の調査や計画を遂行する作業の件で、委託者のご指導をうけ、あるいは共同の中で生まれる、②分科会のテーマに現われているように幅広い領域でチーム間の技術移転や共同の中で生れる、という特徴をもっています。

新しい研究開発・技術開発は別項でご紹介したり、あるいは別にパンフレットにしますが、例えば「狭域的住宅需給予測の方法」とでも呼べるもので近畿圏全域を16の地域区分（セクター）に設定し、「5年間入居世帯数推計」という方法を開発した予測論は「住み替え」という本来の住宅需要行動に着眼して注目されました。また「京都橘女子高校全面移転事業計画」は空間造型としてみてもユニークなものですが、移転を契機としての地域計画的な立地選定から、資金計画等が教学理念の具現化を軸に学園サイド、用地買収担当チ

• ARPA・Kの教育研修と組織運営	1
も • きんきょう 「虚業」と「実業」の間で	3
く • まちかど ◦ 横浜、伊勢佐木町	4
じ ◦ まちのサインとC.I	5
• 一知半解 自治体の投資的経費	6

ーム、地元および行政機関等と共に緻密な計画プログラムを練りあげて進めたことは再開発や地区センター計画での経験が導入され、また逆に地域計画の業務にも多くのリアルな教訓を提供しています。「水環境モデル都市構想」は文化学術研究都市計画の一環ですが、住民生活に規点をおいて治水・利水・水質保全・水辺環境整備の4つの柱をもって構成しているように、専門的な知識を深めつつ他のチームのサジェスションをうけて総合的・重層的な提案をおこなっています。

港湾計画での多様な活用策提案もこの特性に沿ったものといえます。

研修と組織

「ARPA・Kの組織運営」についての質問をときどき受けます。

17年にもなりますと、組織論を語るにもいろいろな切り口がありますが、こゝではまず、「人間をひとりひとり創ることが組織をつくり、動いてゆくカギである」ことと申しあげます。ARPA・Kの教育・研修は、まず個人のオン・ザ・ジョブの学習を基礎に「制度」としてあるのは土曜ゼミと全所研修会があります。個人学習は仕事の中で専門家・実務家の方々に聞いてまわる、いろいろな事例をみて廻ることから、読んだ本を紹介しあうことまであります。土曜ゼミはおゝむね京都・大

阪両事務所が交互に自分たちであるいは講師を招いて討論型式でやっています、テーマは全所研修会でおわかりのように広範にわたっています。

この他に新年の集会、新入所員歓迎会、OB会、あるいは団体交渉も広い意味での学習の場であり、勿論日常の室会議、室長会議も討議の半分は情勢や課題に関する学習会といえます。

ARPA・Kの組織運営は「小さいものほどよいことだ」という考えに基いています。

そして全体の総合力を発揮するのは小集団の連帯と競争の原理によっています。英文名の最初のA - Associates がこの思想を表現しています。それぞれの集団の構成員とりわけリーダーの器量が集団の運命を左右します。

ヒエラルヒーに応じて各室、各事務所をして全所の運命はそのトップの勉強のしかたできまり、大きくもなり小さくもなります。

それで矛盾が拡大してくれば別の室が編成され、あるいはトップの交代ということになります。

幸いにして私たちの仕事は仕事の中で自己を高め、人間的にも鍛練をうけることができることになっています。この機能を大事にし——つまり批判を大いにうけてゆきたいと願っているしだいです。

ロビーと炬燵

地方都市でホテルがふえている。これは在来の「都市ホテル」とか「ビジネスホテル」とは少しちがっていて「コミュニティホテル」の性格をもっている。地方都市にも「ロビーが必要だ」ということのようなのだ。

それならば「都市の街角に炬燵がほしい」といってみたくなる。「炬燵焼」はあるが、あれは人々の語り合う炬燵ではない。

最近「炬燵」を一つ見つけた。隣に70代の親父さん（とおぼしき人）と50代の息子（とおぼしき人）がビールと酒を飲んでた。オカズを吟味しながら、会話を楽しんで飲んでた（全く中味は聞かえなかったが）。大勢の客で騒々しかったが、この2人の周辺は「炬燵」のふんい気がただよっていた。名古屋伏見「大甚」 8月夕暮

「虚業」と「実業」の間で

大阪事務所副所長

重本 幸彦

去る7月のある土曜の夕方、私たちは恒例のアルバックOB会ということで、京の賀茂川べりの床に現旧所員が集う場を持ちました。(OBといっても、定年退職者ではなく、いずれも途中退職の若い人たちです)

水の流れを眺めて、夕風に吹かれて、やがて出席者が一言ずつしゃべることになりました。内輪の集まりなので順番が来るまで何も考えず、立ち上ってから口に出た言葉が「大阪で虚業を担当しておりますシゲモトです」でした。

その日の午後、OB会の面々と見て回った京都駅南口再開発ビルの建設工事現場での強烈な思いが心に残っていたようです。この再開発事業は、私たちの会社のメンバーによる再開発計画に基づいて、建設が行われているのですが、ふだん、地域計画の構想や企画づくりなど、なかなか具体的にならない仕事を担当している私には、ツチ音高く建設されるホテル付十数階建ての華やかな商業ビルの計画や設計の仕事が大変りっぱな「実業」の世界であると、その成果物をまのあたりに見て、今更ながらうらやましく思えたのでした。その思いが、つい「虚業」という言葉になって出たのです。

でもやはり「虚業」といってしまうのは正確でないようです。ある町で、ある日突然、温泉が湧き出しました。さあ、町中に夢が広がります。温泉歓楽街をつくろう。いや、各戸に給湯して町民福祉用に使おう。そこで私たちが構想づくりのお手伝いをするることにな

りました。いろいろな意見にじっくり耳をかたむけて、町役場の課長さんやプロジェクト・チームの職場の人たちと相談して、町民福祉と保養型温泉地とを一体化した「健康づくりの里構想」(兵庫県浜坂町)をとりまとめました。全方位の選択が可能な段階に、つまり、まだどうにでもなる時に構想の形と方向をほぼまちがひなくまとめ、しかも、みんなのコンセンサスが得られるようにする訳です。健康づくりの里構想は、幸いにして地元の方々の努力で着々と夢が現実になっています。これは構想づくりが虚業に終わらず、実業につながった一例です。(もちろん、我が社にはこれ以外にも関西文化・学術・研究都市、土に学ぶ里など多く例がありますが……)

構想や企画づくりを通じて、夢をどのようになくまくふくらませ、そして、それを現実になくどう転化させるか——そのために大枠の見通しとプランニングやマネージング上の工夫が大切であり、一番しんどくて一番やりがいのあるところでは。〃虚実皮膜(近松門左衛門の語。現実と虚構の間に芸の真実があるとの意)〃という心境です。

計画書を単なる「計画書」というものに終わらせるか、具体事業へ発展する生きた「計画」にしていくかは、ある意味で計画作業時の紙一重の努力という気がします。

私たちの会社の社名を分解すると「地域計画」と「建築(設計、施工監理)」ということで、一応、虚実両部隊のメンバーがそろっています。虚々実々という訳ではありませんが、今後とも互いの虚業的実業的特徴をうまく組み合わせたいと思います。

最後に、虚業の仕事をやっているからといって、霞を食って生きている訳ではないのが

つらいところです。皆さん、よろしくお願
いします。(筆者注 筆者は、地域計画部門以
外に水質シュミレーション、治水利水対策、

廃棄物調査、環境アセスメントなど環境関係
の実業的部門も担当しております。)

まちかど

横浜・伊勢佐木町

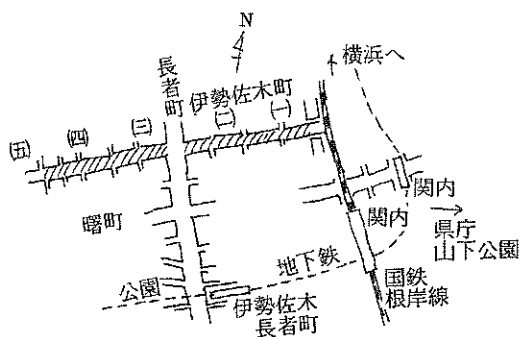
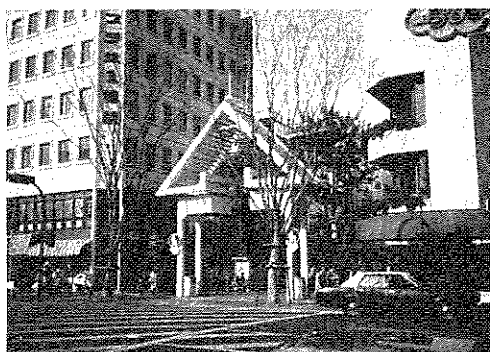
三輪 泰司

2車線の車道にアーケード付きの両側歩道
あわせて12Mほどのかなり広い路線型商店街
伊勢佐木町がショッピングモールに変身した
姿。お店に比べて舗装とベンチ、街灯などの
質が数段高い。これと反対に「公共部分」の
方が個店の質より落ちるのが銀座。銀座では
「歩行者天国」の主舞台は黒いアスファルト
の車道。これはジープンには合うがニューフ
ァッションにはつり合わないのか、そういう
人は両側のきれいなショーウィンドーぎわを
歩く。伊勢佐木町はリッチなストリート・フ
ァニチャーの間をジープンもニューフ
ァッションも歩いてついでにお店をのぞく。

月曜日の午後4時頃の写真です。

ちなみに5丁目から先は元の姿のまゝで、
人通りがバタリととだえるのも妙。

横浜駅から国鉄根岸線関内又は地下鉄関内
か伊勢佐木長者町下車。



まちかど

まちのサインとC・I

名古屋事務所長

尾関利勝

6月のある日、全国まち並ゼミに参加しようと臼杵（大分県）のまちを訪ねた時のこと。熊本から竹田を経て臼杵に向う車の窓からふと眼についたのが写真のサイン。もちろん臼杵市内に入ってから。

知らないまちを旅する時、地図を片手に方向を求め、道を聴きながら目的地をさがし当てるのも旅の楽しみの一つ。そんな時、要所要所に気のきいた案内があれば旅人にはもう一つ心強い。

臼杵のサインは写真①石仏、②海とリーフデ号（三浦按針の漂着した船）の他にまち並をモデルにしたものの3種類に気がついた。いずれも進行方向の目的物が表示してあるしくみになっている。

観光地のみならず町並の修景に欠かせない要素の一つがサイン。近頃は各地で案内・サインに気を配り始め、各種の工夫がこらされているものの、もう一つその地域の特徴を表わし切れないものが多い中で、これはこの町の特徴がわかり易いサインと感心した。

近頃、広告や商業計画ではC・I（コーポレート・アイデンティティー）が大はやり。まちづくりにもアイデンティティーが欠かせないことは、従来私達も主張してきたこと。リージョナルアイデンティティー（R・I）かタウンアイデンティティー（T・I）か。とりあえずはシティアイデンティティー（C・I）とでも言うておこうか。



① 石仏



② 海とリーフデ号

このサインについて欲を言えば、町中に向う方向だけでなく、市外に出る方向にも何かもう少し工夫があればと思った。

（注）三浦按針＝ウィリアム・アダムス

日本に最初に渡来したイギリス人

一 知半解

「一知半解辞典」という本が出ています。その辞典による一知半解という言葉の意味は、「教えたくてむずむずする程度の知識」であり、「ちと教えようかと代る下手将棋」という古川柳が当てはまるようなものということです。まことにタイミングよくアップercutが飛んでくるものです。むずむずするほど知識が浮んで来ないので困りますが、厚顔無恥に当分がんばって続けます。

自治体の普通建設事業費（投資的経費）
は人口1人当り5万～28万円

人口の少ない町村と人口の多い都市では、投資的経費の支出が6倍近い差になっている。人口密度のちがいが表われているとみてよか

ろう。この投資的経費の全歳出に占める比率は人口の多い都市で27.3%、人口の少ない町村で44.6%となっている。つまり自治体予算の40%近くが投資的経費として、地域に影響を与えている。

この予算を人口1人当りでみると、人口10万人ぐらゐの都市（Ⅲ-4類型）で55,800円となり、そのうちのおよそ1/3が一般財源で、さらに1/3が地方債となっている。つまり国庫や府県の支出は1/3弱である。また人口1万人ぐらゐの町村（Ⅲ-3類型）でみると、1人当りが95,900円で、そのうち1/4が一般財源、1/4が地方債となっている。

普通建設事業費の財源内訳

単位：円

	都市Ⅲ-4類型	町村Ⅲ-3類型
普通建設事業費計	55,801	95,923
国庫支出金	12,412	17,726
都道府県支出金	2,861	18,210
使用料・手数料	15	51
分担金・負担金・寄附金	663	3,679
財産収入	623	961
繰入金	1,026	2,009
諸収入	743	1,472
繰越金	1,018	1,453
地方債	17,104	25,403
一般財源等	19,335	24,960

資料：類似団体別市町村財政指数表 58.1

ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

- 本社 事務所 ☎600 京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82 TEL (075)221-5132(代)
(大和銀行京都ビル8階)
- 大阪事務所 ☎540 大阪市東区石町1丁目1番地 TEL (06)942-5732(代)
(天満橋千代田ビル2号館)
- 名古屋事務所 ☎460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 TEL (052)962-1224
(ツボウチビル6階)
- 九州事務所 ☎810 福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階 TEL (092)281-2349